
特 別 活 動

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

組織的な授業改善の推進～SSEの視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現～

(2) 研究のねらい

「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指し、特別活動における資質・能力の三つの視点(「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」)から合意形成や意思決定を実践するホームルーム活動を行い、各学校において特別活動の「評価の観点」とその趣旨、並びに評価規準を作成する参考となるよう、今年度はテーマを「SSE(Social Skills Education)(以下、SSEという)」に設定し、指導計画及び評価の事例を作成する。

2 研究の内容及び方法

令和4年度から「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」が年次進行で実施されたことに伴い、高等学校特別活動においても学習評価の改善が求められている。

高等学校における特別活動の記録については、各学校が自ら定めた特別活動全体に係る評価の観点を記入した上で、活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分に満足できる活動の状況にあると判断される場合に、「○」印を記入する。

評価の観点を定めるに当たっては、特別活動の特質や学校として重点化した内容を踏まえ、各学校において具体的に定めることができる。例えば「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」等である。評価をするに当たっては、「十分に満足できる活動の状況」とは「生徒のどのような姿」を目指すのかを校内で検討し、評価補助簿(表1、表2参照)を用いる等により「目指す生徒の姿」について共通理解を図ることが求められる。なお、生徒のよさや可能性を積極的に評価することが大切である点に留意する。「○」印を付けた具体的な活動の状況等については、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に簡潔に記述することも考えられる。

このような背景から、推進委員が所属する各学校の実情を基に上記資質・能力の三つの視点で「合意形成」あるいは「意思決定」を実践するホームルーム活動を想定し、指導事例を作成することとした。そして今年度は、「SSE」の取組が、生徒の主体性や自主性を育むことにつながると考え、テーマを「組織的な授業改善の推進～SSEの視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現～」と設定した。指導事例を推進委員全体で協議し、二つの学校で異なる指導事例を考案することに決めた。その学校として重点化した内容を踏まえて特別活動の「評価の観点」を設定し、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成した。

《高等学校特別活動の「内容のまとまり」について》(『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説特別活動編』より)

特別活動の「内容のまとまり」(高等学校)

■ ホームルーム活動

- (1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画
- (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
- (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

■ 生徒会活動

■ 学校行事

- (1) 儀式的行事
- (2) 文化的行事
- (3) 健康安全・体育的行事
- (4) 旅行・集団宿泊的行事
- (5) 勤労生産・奉仕的行事

本研究は上記「内容のまとまり」のうち、ホームルーム活動に着目した指導事例である。

《SSEについて》

本研究において、SSEを「学校生活の過ごし方や、感情のコントロールの仕方など、その時々でどのような行動をとるとよいのかを考えたり、実践できるように練習したりする学習」と定義した。対人スキルやコミュニケーション能力など、よりよい学校生活を送るための人間関係づくりや自己実現のための気づきを見つけ出し今後の学校生活へ生かし成長することや、ストレスへの対処法の一つのアプローチとして人間関係や社会生活において課題を感じたときに活用できることを目標にテーマを設定した。

《評価補助簿について》

教員が生徒の日々の活動や様子を観察し、蓄積していく評価補助簿は、生徒のよさを積極的に読み取り、記録を蓄積していくことができるため、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を育んでいく上でとても有効なツールであると考えます。生徒一人ひとりの活動の状況を把握すると同時に、学年のみならず全校の教員が評価資料を共有することができるため、共通理解を図り、学校の教育方針を明確化して、生徒に対する多角的・多面的指導に資することができる。「目指す生徒の姿」の実現に向けた評価実践に補助簿を活用することで、より具体化された指導と評価の一体化が実施できると考えています。

3 指導事例

推進委員の所属校2校(神奈川県立柏陽高等学校・神奈川県立新羽高等学校)で研究授業を実施し、指導事例として掲載する。

《指導事例1》神奈川県立柏陽高等学校(全日制の課程) 第2学年

教諭：小澤 卓明

(1) 目指す生徒の姿

- ・ホームルームや学校の生活を向上・充実するために、SSEを通じて自己や集団における諸問題を話し合っ解決することや他者を尊重し、協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。
- ・ホームルームや学校の生活を向上・充実させるために、SSEを通じて自己や集団における課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。
- ・SSEを通して生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、ホームルームや学校における生活や人間関係をよりよく形成し、多様な他者と協働しながら自己や集団として日常生活の向上・充実を図ろうとしている。

(2) 指導と評価の計画案

「SSEについて考え、実践による気づきを他者と共有し今後の学校生活に生かす」

ア 生徒(学校)の様子

本校は「学力向上進学重点校」として、将来の国際社会でリーダーとして活躍する人材の育成を目指し、高い学力・コミュニケーション能力・リーダーシップを身に付けさせるとともに、豊かな人間性・社会性を育むよう、「授業の工夫」「グローバル教育」「系統的進路指導」「生徒主体の行事運営」等を行っている。一方、学校生活を送る中で、学力は高いが対人スキルやコミュニケーションに「苦手意識」を持っている生徒や、様々な部分で協働すること、学習と行事や部活動を両立することに「疲れ」を感じている生徒も多く、自分の学習に集中しすぎることによって他者との「人間関係づくり」に重きを置かない生徒がいるなど、日常生活を送る上でホームルーム教室ごとに異なる課題がある。

イ 内容のまとめ

「ホームルーム活動(1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画」

ウ 議題

「よりよい学校生活を送るために、SSEについて調べたことをまとめ、実践を通しての気づきを他者と共有する」

エ ホームルーム活動(1)で育成を目指す資質・能力

- ホームルームや学校の生活を向上・充実するために、自己や集団における諸問題を話し合っ
て解決することや他者を尊重し、協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順
や活動の方法を身に付けている。【知識及び技能】
- ホームルームや学校の生活を向上・充実させるための自己や集団における課題を見だし、
解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。
【思考力、判断力、表現力等】
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、ホームル
ームや学校における生活や人間関係をよりよく形成し、多様な他者と協働しながら自己や集
団として日常生活の向上・充実を図ろうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

オ 内容のまとめりごとの評価規準

【ホームルーム活動(1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるためにSSEを通じて、諸問題を話し合っ て解決することや、他者を尊重し協働して取り組むことの大切さを理解している。 ・話し合い活動や合意形成を得るための手順や活動の方法を身に付けている。 ・多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるためのSSEを通じた自己や集団の課題を多角的に見いだしている。 ・課題を解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者として、多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の向上・充実を図ろうとしている。 ・他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす人間関係を作ろうとしている。

カ 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホームルーム活動1	<p>【テーマ：SSEを学校生活に生かす①】 SSEについて知り、グループで実践テーマを設定する。</p> <p>○ねらい SSEという言葉の意味を理解し今自分たちに足りない部分は何か考える。</p> <p>○活動 ・生徒代表者1名の講演や授業スライドを用いた説明を聞き、SSEについて理解する。 ・グループを作成し、今自分たちに足りない部分をライフスキルという概念から検討する。 ・グループごとにSSEについて一つの実践テーマを決める。 (決めたテーマを今後の日常生活で実践する。) ・授業内容を振り返り、Google フォームにまとめ回答する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるためにSSEを通じて、諸問題を話し合っ解決することや、他者を尊重し協働して取り組むことの大切さを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるためのSSEを通じた自己や集団の課題を多角的に見いだしている。 	
ホームルーム活動2	<p>【テーマ：SSEを学校生活に生かす②】 SSEについて実践したことを振り返る。</p> <p>○ねらい SSEについて実践したことを評価し、学校生活に変化はあったか振り返り検証する。</p> <p>○活動 ・SSEについて、グループ内で決めたテーマを日常生活で実践した内容について、授業スライドを参考に評価を行う。 ・グループ内で気付き等をスライドにまとめ、次回の発表でクラス内へ共有する準備を行う。 ・授業内容を振り返り、Google フォームにまとめ回答する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 		<ul style="list-style-type: none"> 当事者として、多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の向上・充実を図ろうとしている。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ホームルーム活動 3</p>	<p>【テーマ：SSEを学校生活に生かす③】 SSEについて実践をまとめ、他者と共有し学校生活に生かす。</p> <p>○ねらい SSEについて実践後の気付きを集団(クラス)の中で共有し、今後の学校生活をより豊かにするために課題解決を行う。</p> <p>○活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内でSSEの実践について、前回からの気付きをスライドにまとめる。 ・グループごとに決めたテーマについて、クラス内で発表活動(ディスカッション等も可)を行い、気付きを共有する。 ・他者の発表を聞き、今後の学校生活に生かしていきたい内容を中心に振り返り、Google フォームにまとめ回答する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動や合意形成を得るための手順や活動の方法を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす人間関係を作ろうとしている。
---	--	---	---	---

キ ホームルーム活動「SSEを学校生活に生かす③」について

(7) 議題(あるいは題材)

よりよい学校生活を送るためにSSEについて学び、グループで自分たちの決めたテーマ(課題)を解決するための実践を通して、気付きをまとめ、発表活動等で他者と共有する。

(4) 本時における目指す生徒の姿

- ・話し合い活動や合意形成を得るための手順や活動の方法を身に付けている。
- ・課題を解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。
- ・他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす人間関係を作ろうとしている。

(ウ) 本時の展開

「SSEの実践による気づきを他者と共有し今後の学校生活に生かそう」

	生徒の活動	目指す生徒の姿
導入 (5分)	①教員・学級委員より、本時の目標・授業内容の説明を聞く。(本時は教員のみでなく学級委員による主体的な授業運営)	①学級委員による説明を聞き、発表活動に向け合意形成を行う意欲がある。
展開1 (10分)	②発表活動(クラスによってはディスカッション等)に向け、グループで協働し、SSEの実践による気づきをスライドにまとめる等、発表準備を行う。	②グループの中で、多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の向上・充実を図ろうとしている。
展開2 (30分)	③学級委員の指示により事前に決めた基準で発表活動等を行い、SSEの実践による学びや気づきを他者と共有する。 (目安1グループ3分×10グループ) ④発表を聞きそれぞれのグループに対してGoogle フォームに気づき等、フィードバックを記入しておく。	③課題を解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。 【思考・判断・表現】(観察) ④話し合い活動や合意形成を得るための手順や活動の方法を身に付けている。【知識・技能】(Google フォーム)
終末 (5分)	⑤学級委員より本時の活動の講評を聞き、これまでの学習内容を振り返り今後に生かしていきたいことをGoogle フォームに回答し、フィードバックと合わせて送信する。(事後指導の際に活用)	⑤学習内容を振り返り、他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす人間関係を作ろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】(Google フォーム)

ク 評価補助簿について

評価については、補助簿などを作成し個別に評価していく。次の表1は補助簿の例であり、学年共通で用いることを想定している。

表1 「SSEについて考え、実践による気づきを他者と共有し今後の学校生活に生かす」における補助簿の例

出席番号 名前	目指す生徒の姿	ホームルーム活動1		ホームルーム活動2		ホームルーム活動3			メモ
		知技	思判表	知技	態度	知技	思判表	態度	
		決めるためのSSEを通じて、諸問題を話し合っ解決することや、他者を尊重し協働して取り組むことの大切さを理解している。	ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるためのSSEを通じた自己や集団の課題を多角的に見いだしている。	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。	当事者として、多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の向上・充実を図ろうとしている。	話し合い活動や合意形成を得るための手順や活動の方法を身に付けている。	課題を解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす人間関係を作ろうとしている。	
1	A								
2	B								
3	C								

ケ まとめ(解説として)

1年次にLHRにて行った「よりよい集団づくりとは」というテーマをもとに実施した学年全体の発表活動との接続も意識し、本研究でも、昨年度と同じ10月から11月にかけて学年全体で実施することを考えた。「SSE」を題材として、「WHOの示す10のライフスキル」を切り口に、本校生徒が苦手意識のある対人スキルやコミュニケーション能力など、よりよい学校生活を送るための人間関係づくり、自己実現のための気付き(ヒント)を見つけ出し今後の学校生活へ生かし成長する「課題解決型の授業実践」を行った。

まずはじめに、ホームルーム活動1として、昨年度との接続や今後の進路活動(自己実現)に向けて、体育館で学年全体に対して同じ教材(授業用スライド)を用いて説明した。しかし、学年8クラスのうち5クラスが学級閉鎖となり、約200名弱が自宅での端末を用いた「オンライン授業」となり、統一して同じ形式で授業を展開することはできなかった。これに対し、学級委員や教員によるオンライン対応や、テーマ設定を柔軟に変更する等の事後フォローを丁寧に実施したことで、生徒も活動に対して前向きになることができた。生徒(主に学級委員)が主体となり「もっと学年を〜したい」「私たちのクラスには〜が足りない」「次の授業はディスカッションの後に更にグループワークがしたい」等、昼休みや放課後にも意欲的に試行錯誤を繰り返し、教員やクラス内での質疑や議論を経たことで2回目の授業実践時に学年全体で足並みを揃えることができた。

ホームルーム活動1で生徒が設定したテーマには容易に実践できそうなものから実践が難しそうなものなど様々なテーマがあったため、ホームルーム活動2の実施においては、ABC(A:決めたテーマをグループ全員実践できた B:決めたテーマを一部実践できた C:決めたテーマを実践できなかった)の3段階の自己評価(グループ内)を基に授業の目的である「SSEを今後の学校生活へ生かす」を再認識し軌道修正可能な授業展開にした。

生徒の反応に着目すると、「毎日の小さな習慣が自分の中身を作っていくことをよく学んだので、今後は自分の生活習慣を整え理想の自分に近づきたい」「身の回りの小さな工夫でも少し変えるだけで日々の生活がちょっと楽になるのは素敵なことだと思った。みんなと協力して温かく過ごしやすい環境を作っていけたらいいと思う」「(授業を通して)たくさんのことを学ぶことができたので実践したい」「ネガティブに捉えなくなったので過ごしやすくなったし、素直に他の人の意見を受け止めることができるようになった」(図1)等、他者との協働の中で、前向きに捉える意見が見られた。一方で「グループで役割分担がうまく出来ず一部の人しか発表への取組ができなかった」という課題を感じる声もあった。

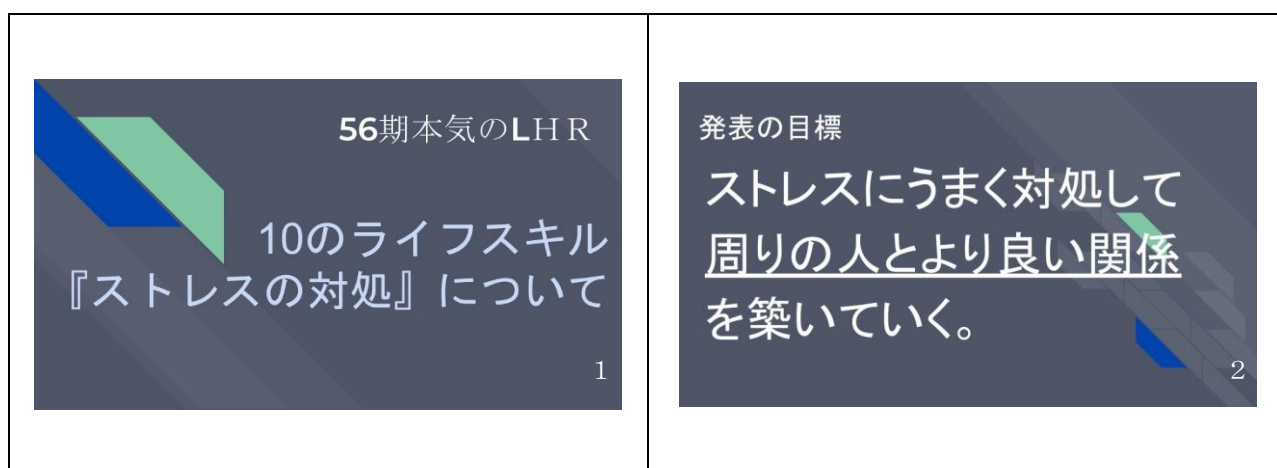




図1 ある班の生徒達が作成したスライド資料

コ 今後の予定と課題

本研究を行うにあたり、事後学習として学年集会で生徒主体のSSEの実践の振り返りや今後3年次への接続を予定しており、今後もこの授業実践に留まらず、粘り強く日常的に「SSE」をテーマに学年全体で声掛けをはじめとする支援を行う必要があると感じた。

また、本研究での課題は特別活動における評価の難しさである。表1を例に評価することを考えたが、生徒一人ひとりの様子を発表の様子で総括的に判断することは困難であり、観察やGoogle フォーム等を用いて継続的に生徒の伸び具合や成長を評価の計画と合わせながら入念に行う必要がある。冒頭で述べた、組織的な授業改善「主体的・対話的で深い学び」の実現という点においては「指導と評価の一体化」の視点を持ち生徒と教員が思考錯誤を繰り返し、各学校の課題に向き合い授業改善を繰り返す姿勢が極めて重要であると考えた。

(1) 目指す生徒の姿

- ・ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるために、多種多様な考え方の背景を理解し、異なる立場に立って考えながら合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。
- ・ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるために、異なる立場に立って考えながら課題を多角的に見だし、多様な意見を取り入れながら相手を尊重した意見交換をしている。
- ・ホームルーム及び社会の一員として、主体的に学び考え、自分の意見を相手に伝えようとするだけでなく、他者と協働しながら意見をまとめ合意形成を図ろうとする中で、良好な人間関係を作ろうとしている。

(2) 指導と評価の計画案

「バウンダリー(境界線)(※1)について考える」

※1 【バウンダリー(境界線)について】

バウンダリー(境界線)とは、自分に対して行動をとってくる他人に対して、合理的・安全・許容可能な手法であるかを判別するために個人が作成する、ガイドライン・ルール・制約であり、自他のバウンダリーについて考えることは、対等な人間関係を築くために必要なスキルである、と生徒に示した。

ア 生徒(学校)の様子

本校は、一つの学年に約400人の生徒が在籍する大規模校であり、生徒の人間関係も日々変化しやすい様子が確認できる。他者への関心が高い一面もあり、いわゆる「人懐っこい」面が強い。それゆえに、自他の境界線が曖昧になり、上手な線引きができなくなってしまう様子がうかがえる。

異なる背景や考え方を持つ者同士のコミュニケーションに課題を感じ、そのストレスから学校生活から遠のいてしまう生徒も少なくない。

生徒がよかれと思ってした行動が、思わぬ形で他者へ影響してしまい、コミュニケーションがうまくいかない様子もしばしば確認できる。これらのコミュニケーションにおける諸問題に対して、生徒の実情に合わせたSSEプログラムが有効であると考えられる。

イ 内容のまとめ

「ホームルーム活動(1) ホームルームや学校における生活づくりへの参画」

ウ 議題

「バウンダリー(境界線)について考える」

エ ホームルーム活動(1)で育成を目指す資質・能力

○ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるために、バウンダリー(境界線)やアサーション(※2)について理解し、自他のバウンダリーについて考える方法を身に付けている。

【知識及び技能】

○ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるために、異なる立場に立って考えながら課題を多角的に見だし、多様な意見を取り入れながら相手を尊重した意見交換をしている。

【思考力、判断力、表現力等】

○多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の向上・充実を図り、他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす関係を作ろうとしている。【学びに向かう力、人間性等】

※2 【アサーションについて】

アサーションとは、コミュニケーションスキルの一つであり、自分の気持ちを正直に伝えつつ、相手を傷つけないで両者ともに納得できる話し方である、と生徒に示した。

オ 内容のまとめりごとの評価規準

【ホームルーム活動(1)「ホームルームや学校における生活づくりへの参画」の評価規準】

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるために、バウンダリーやアサーションについて理解し、自他のバウンダリーについて考える方法を身に付けている。	ホームルームや学校、社会生活を向上・充実させるために、異なる立場に立って考えながら課題を多角的に見だし、多様な意見を取り入れながら相手を尊重した意見交換をしている。	多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の向上・充実を図り、他者への尊重と思いやりを深めて互いのよさを生かす関係を作ろうとしている。

カ 一連の活動と評価

時間	議題及び題材 ねらい・学習活動	目指す生徒の姿		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ホーム ルーム 活動 1	<p>【テーマ：第1回SSEプログラムバウンダリーについて知り、自他のバウンダリーに触れる】</p> <p>○ねらい バウンダリーという考え方について理解し、自分のバウンダリーについて考える。</p> <p>○活動 他者のバウンダリーに触れ、自分のバウンダリーとの差について考える。</p>	<p>・バウンダリーの考え方を理解し、自分のバウンダリーについて考えている。</p>		<p>・自分のバウンダリーは自分で決めてよいことを理解した上で、線引きをしようとしている。</p>
ホーム ルーム 活動 2	<p>【テーマ：第2回SSEプログラムバウンダリーを守るためのコミュニケーションスキル「アサーション」を身に付ける】</p> <p>○ねらい アサーティブな考え方と、そうでない考え方の違いを理解し、自分のバウンダリーを守り、他者のバウンダリーを尊重するためのよりよいコミュニケーション力を身に付ける。</p> <p>○活動 コミュニケーション事例を挙げ、その際のバウンダリーについて考え、他者と共有する。バウンダリーを守るためにアサーティブな考え方をを用いて実践的に練習する。アサーティブな考え方のポイントを押さえ、その際に大切なことを導き出す。</p>	<p>・アサーティブな考え方と、そうでない考え方の違いを理解している。</p>	<p>・アサーションについて学び、適切な活用を試みている。</p> <p>・バウンダリーの衝突について考え、他者理解と自己理解を通して、よりよく社会生活、学校生活を送るための行動を考えている。</p>	<p>・アサーティブな考え方に基づいて、他者の立場を尊重して、考えようとしている。</p>

キ ホームルーム活動「バウンダリーを守るためのコミュニケーションスキル『アサーション』を身に付ける」について

(ア) 議題(あるいは題材)

他者とのコミュニケーション事例を基に、アサーティブな考え方をを用いて自分のバウンダリーを守り、他者のバウンダリーを尊重するためのコミュニケーションについて考える。

(イ) 本時における目指す生徒の姿

- ・アサーティブな考え方と、そうでない考え方の違いを理解している。
- ・アサーションについて学び、適切な活用を試みている。また、バウンダリーの衝突について考え、どのように自分を大切にしていくことが社会的なのか考えている。
- ・アサーティブな考え方に基づいて、他者の立場を尊重して、考えようとしている。

(ウ) 本時の展開

「アサーションを身に付けよう」

	生徒の活動	目指す生徒の姿
導入 (3分)	①バウンダリー概念について復習	①前時の学習内容が身に付いているかの確認をし、日常生活に生きていたかを考えている。
展開1 (5分)	②アサーションについて学ぶ 自身のコミュニケーションのタイプについて考える。	②自分ごととして捉え、よりよい生活のために前向きに取り組んでいる。
展開2 (15分)	③コミュニケーションの簡単な場面例から、三つの基本的なアサーションを学ぶ。それぞれの場面について4～5人のグループで考える。(10分) a. 「私メッセージ」 b. 「気持ち」を伝える c. 「肯定的な言葉」で終える ④Google フォームを用いて全体共有(5分)	③前時の学習内容を意識した上で、アサーティブな考え方と、そうでない考え方の違いを理解している。【知識・技能】 アサーションについて学び、適切な活用を試みている。【思考・判断・表現】 ④新たな意見や視点を自分に取り入れようとするなど、自分のバウンダリーを大切に、他者のバウンダリーを尊重する姿勢を重んじようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
展開3 (25分)	⑤人間関係の悩みに関して二つの具体的な場面例(図2)から、四つのコミュニケーションタイプそれぞれの行動について考える。(20分) ⑥Google フォームを用いて全体共有(5分)	⑤バウンダリーの衝突について考え、他者理解と自己理解を通して、よりよく社会生活、学校生活を送るための行動を考えている。【思考・判断・表現】 ⑥新たな意見や視点を自分に取り入れようとするなど、自分のバウンダリーを大切に、他者のバウンダリーを尊重する姿勢を重んじようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
終末 (2分)	⑦本時の振り返り 事後アンケートに回答する。	⑦学習内容を振り返り、自身の生活に活用できそうな点を見いだす。

アルバイト先で

バイト先の店長はささいなことですぐに怒るので、バイトの私はいつもドキドキ緊張しながら仕事をしています。

今日はトイレの掃除とフロアの掃除の順番を間違えてしまい激しく怒られてしまいました。どちらを先にやってもそこまでオペレーションに支障はなく、激怒されるようなことではないはず。

実はこの程度のミスは店長もよくしているのを見かけます。しかし、店長は「しまったしまった」程度で終わらせています。

私の周りの人たちも仕事そのものより、店長の機嫌が気になってしまい、仕事の効率の上でも決して働きやすいとは言えません。

このような上司に対し、どう対応すればよいのでしょうか。 **場面例 1**

友達と...

学校で仲良くなった友人との付き合い方に困っています。最初の頃は好感が持てる人だと思っていたし、部活が同じで趣味の話題も合ったので付き合っていたのですが、だんだんいろいろなことを頼まれるようになってきてそれが負担に感じるようになってきてしまいました。

例えば、忙しいから代わりに宿題をやってほしいとか、忘れ物したからとってきてほしい、毎週のように体操着貸りにくる等...しかもいつも急をお願いしてきて困ってます。たまにならそんなに気にならないけど、当たり前のように言ってくるのも気になります。

私は友人に対してここまでなんでもお願いはしませんが、私は心が狭いのでしょうか。

このような友人に対してどう接したらよいのでしょうか。 **場面例 2**

図2 展開3で用いた二つの具体的な場面例

ク 補足

本時の展開の基本的なルールは、

1. 相手の意見を否定しない。(他者を思いやる)
2. 相手の気持ちを考え、相手の意見の背景を理解する。
3. 個々のバウンダリーは恒常的なものではなく、時と場合によって変化してもよいものと認識した上で相手の話を聞く。(この人はこういう人だと決めつけない)
4. アサーティブな考え方を強く意識し、自分の気持ちや考えを適切に伝えようとする。

とする。

ケ 評価補助簿について

評価については、補助簿などを作成し個別に評価していく。次の表2は補助簿の例であり、学年共通で用いることを想定している。

表2 「バウンダリー(境界線)について考える」における補助簿の例

出席番号	目指す生徒の姿 名前	ホームルーム活動1		ホームルーム活動2			メモ
		知技	態度	知技	思判表	態度	
		バウンダリーについての考え方を理解し、自分のバウンダリーについて考えている。	自分のバウンダリーは自分で決めてよいことを理解した上で、線引きをしようとしている。	アサーティブな考え方と、そうでない考え方の違いを理解している。	アサーションについて学び、適切な活用を試みている。また、バウンダリーの衝突について考え、どのように自分を大切にしていくながら社会的なのか考えている。	立場を尊重して、考えようとしている。	
1	A						
2	B						
3	C						

コ まとめ(解説として)

高校生という多感な時期において、コミュニケーションスキルを高めることは、柔軟で受容力の高い人間を育てる上で必要性の高い活動であると考えた。本研究では、相手(他者)からの働きかけにより自分のバウンダリーを保つことに困難を感じ、精神的ストレスを感じつつ対処法がわからない生徒への一つのアプローチとしてSSEプログラムを実践することで、自分のバウンダリーを守るために有効なコミュニケーションスキル(アサーション)を知り、人間関係や社会生活において課題を感じた時に活用できることを目標とした。また、「人間関係に係る諸問題をなくすための手立て」ではなく、諸問題が発生したときに「どのように向き合うか」という点に焦点を当てた考え方を基にしているため、授業では、あらかじめこの点について言及した上で実践するよう工夫した。また、バウンダリーの考え方やアサーションはアプローチの一つであるため、授業の中で生徒と対話をする際にこれらの考え方だけに固執せずに生徒の思いや考えに寄り添うことを指導上の留意点とした。

本校での認知度が比較的低い概念であるバウンダリーについて触れることで、生徒の自己決定力の育成と、他者理解への積極的寛容力、および自己を許容する力を身に付けることをねらいとし、授業では積極的にバウンダリーについて問いかける時間を設けた。また、受容性の高さを育むための授業であるため、「断定的に他者のバウンダリーの良し悪しを決めることは望ましくない」などバウンダリーを考える際に留意しなければならない点を生徒と共有した。

ホームルーム活動2のワークショップにおいて、アクティビティの量が設定時間に対し多かったため、かなり駆け足での実践となった。2単位時間ではなく、3単位時間での活動計画とすることや、各活動をGoogle フォーム等を用いて共有することで多様性とアサーティブな考え方に対する理解をより深めることができたかもしれない。

全2回のSSEプログラムではそれぞれ事後のアンケートを行い、さらに追跡アンケートを1回、計3回のアンケートを行った。第1回SSEプログラム後の事後アンケートにおける記述の中には、「自分は…」 「わたしが…」 「バウンダリーの守り方が…」 のように、「自分」が主体の記述が多く見られた。第2回SSEプログラム後の事後アンケートにおける記述の中には、「相手は…」 「自分だけでなく、相手がいて…」 のように、「相手」について言及している記述が増加した。コミュニケーションの主体が「自分」だけだったところが、「自分と相手」といったように、生徒の中で主体の枠が広がったように見取った。「SSEプログラムで学習した内容を授業後に私生活で活用できた場面があったか」という問いに対して、授業を行ってからアンケートを行うまでの期間が1週間だけであったにもかかわらず、第1回SSEプログラムでは59.2%、第2回SSEプログラムでは47.6%の生徒が「あった」と回答した。また、「今後もSSEのような学習を必要とするか」という問いに対し、約90%を超える生徒が「必要(30.6%)」または「どちらかというとも必要(60.2%)」と回答していることから、本校におけるSSEプログラムは一定の効果があったと考えている。本研究では学年で実践し、表2を用いた評価を行うことを考えたが、ゆくゆくは学校全体での取組として昇華し、定期的を開催することを考えており、その際は表2の評価補助簿も生徒の発達段階に応じたアレンジが必要となってくるであろう。個人で研究を深めるだけでなく、例えば分掌業務の中に取り入れたり、プログラムを作る際にSCやSSWの知見を参考としたりするなど、組織での取組にしていくことが望ましいと考えている。